九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

「超高速ネットワークを利用したアジア遠隔医療プロジェクト」AQUA (Asia-Kyushu Advanced Medical Network)活動報告 : 第3巻

清水, 周次
九州大学病院

中島, 直樹
九州大学病院

https://doi.org/10.15017/8303

出版情報：「超高速ネットワークを利用したアジア遠隔医療プロジェクト」 TEMDEC活動報告. 3, pp.1-152, 2007-04. AQUA事務局
バージョン：
権利関係：

1.　はじめに

平成 18 年度版として、AQUA の活動に関する報告書の第３号をお届けできますことを大変嬉しく思います。お陰さまで私共のアジア・太平洋地区を中心とした国際遠隔医療活動が多くの国や地域へと広がりを見せ、非圧縮で高解像の動画像を配信できる本システムが各地で認識・採用されていくことは法外の喜びであります。専用の高価なテレビ会議用機器を購入することなく、手元にあるコンピュータや市販のビデオカメラを用いて構築できる気軽さと経済性が、多くの医療機関で受け入れられている一因でもあります。

本年度もこの一年間に多くの ”new” が誕生しました。まずこの１年間の遠隔テレカンファレンスは３７回を数えましたが、これは一年間に行った数としてはこれまでの中で格段に多い年でした。また TEIN2（Trans-Eurasia Information Network 2）とも協力することにより、ベトナム、インドネシア、インド、マレーシア、フィリピンに新しい回線が初めて接続されました。また施設別でも、ソウル大学病院本院、北京大学、国立台湾大学、チュラロンコン大学、インドネシア大学、ハノイ国立小児病院、オーストラリア国立大学、スタンフォード大学、長崎大学など、多くの大学や医療施設が新しいメンバーに加わりました。多くのライブデモも印象的でしたが、中でもハロンで行われたアジア・ヨーロッパ会議の政府高官レベル会議、ソウルで開催されたアジア内視鏡外科学会、８箇所を同時に接続した鳥インフルエンザ会議などは、特に意義深いものでした。

来年度の主な目標は、次のように考えています。

（１）アジア・太平洋地区は元より、DVTS を使用したシステムを今後は欧米へも展開させる。（２）システムの更なる改良を目指し、画質や音声の向上とともに、機器の設定や準備にかかる時間や手間を省ける努力を重ねる。（３）ライブデモンストレーションの利点を生かし、今後は定期的なセミナーや教育プログラムを作成し、魅力あるコンテンツをアジアへ発信する素地を確立する。（４）ハイビジョン技術を取り入れたシステムの利用を実用化しこれを促進する。

最後に、本プロジェクトにご協力いただいているエンジニアの方々、医療スタッフ、および企業・政府関係者の方などすべての人に深謝申し上げますと共に、今後もさらなる発展のため益々のご支援をいただきますよう宜しくお願い申し上げます。

平成 19 年 3 月

九州大学病院　光学医療診療部
清水周次